

私生子認知 一七  
 廢離籍復籍拒絕 一一  
 入籍離籍喪失 二二  
 國籍喪失 二二

公文書

受付發送 件數  
 三、四〇〇  
 一、一五二  
 六六二  
 八〇六

部落別戸數調

本籍戸數  
 一六四  
 六二二  
 七四九  
 三九〇

同上の内現住戸數  
 八一

寄留戸數  
 六九

現住寄留合計  
 一五〇

戸籍受付發送 一八  
 後人口統計小票見 四五九八  
 計 一、一七四  
 一三一〇三

受付發送 件數  
 證明閱覽 一、八二一  
 印鑑届出 四一二  
 衛生計 九二一  
 九、一七四

(昭和三年末)

第三章 村の政治

管理沿革 (村記録)

藩政時期 庄屋制度 明治元年より同五年迄

安藝郡口組受割庄屋の管轄に屬し、庄屋二名、組頭五名を配置し各浦に長百姓若干を附屬せしめらる。

安藝郡を口組、沖組、中組、奥組に區劃し、本村、府中、湍品、中山、矢賀、牛田、戸坂は口組なり。

庄屋は割庄屋の監督を受け組頭、長百姓は庄屋の機關たり。

大	丹	日	似	金	合
河	那	宇	島	輪	計
六八八	三五三	三六九	二五九	二一	三、六一五
四六九	二一七	二四六	二二九	七	二、五二八
四二	二〇	二八	九	一	三二七
五一	二三七	二七四	二三八	七	二、八四五

廢藩後時期 五年二月より同年六月迄

少長九名及各浦若干の少長副を置かる。

區制時期 五年七月より十一年十一月迄

第三大区(安藝郡)第二小区となる。(明治五年七月)

川係及組合總代各二名を置き會所を向洋に設けらる。(同年同月)

戸長一名、副戸長二名を置かる。(六年八月)

戸長、副戸長各一名を置かる。(十一年六月)

但し當時の戸長は牛田、戸坂、中山、矢賀、府中、温品の數村を兼攝せり。

町村區制時期 十二年より二十二年三月

郡區町村編成法發布。(十一年七月)

要旨 1、地方を劃して府縣の下郡區町村とす。

2、郡町村の區域名稱は凡て舊に依る。

3、毎町村に戸長各一員を置く又數町村に一員を置くことを得。

區町村會法發布。(明治十三年四月)

要旨 區町村の公共に關する事件及其の經費の支出徵收方法を認定す。

民選戸長時期 十二年より十六年一月迄

民選戸長一名を置き各浦に傭使又は總代を附屬す。

官選戸長時期 十六年二月より二十二年三月迄

自治制時期 二十二年四月より現在に至る。

自治制發布。(二十一年四月發布)

村長 助役、收入役及書記以下附屬員を置く。

向洋、淵崎、本浦、大河、丹那、日字那、似島、宇品に區會を設く。堀越を除く。(二十三年十月)

區會廢止。(二十七年)

### 村役場の位置 (村記録)

設置年月日

明治六、八、三〇

同 七、〇、〇

同 一、九、二〇

同 一、一、一〇

同 二、〇、二、二〇

位置

淵崎

同

矢賀村

向洋字洋

同二番地ノ二

淵崎單田

建物坪數等

西福寺御堂

渡部一信借

家十八坪

澤田七右衛

門借家廿坪

新築三十一坪

借家賃

家賃年五圓

家賃年十圓

摘 要

官撰戸長時代

戸長役場最初の設置

七ヶ村組合戸長役場

獨立戸長役場設置

明治四十四年八月二十日倉庫六坪及人民控所一坪五合増設



同 四二、二、一三	明治四四、二、二八	一年三ヶ月	助役	比婆郡 甲山町	廣瀬自治夫
同 四、三、一八	大正 七、五、二	七年三ヶ月	助役	廣島市 皆實町	濱井 正
大正 四、三、一五	昭和 四、三、三一	十四年一ヶ月	村長	大 河	岩澤 熊助
同 七、六、二六	同 四、三、三一	十年十ヶ月	助役	淵 崎	吉岡 圓助

### 収入役 (村記録)

就職年月日	退職年月日	在職年月數	出身地	氏 名
明治三二、五、三〇	明治三二、六、二	二ヶ月	向 洋	富永富士太郎
同 二二、六、一三	同 二二、七、七	二ヶ月	同	澤本市郎次
同 二二、七、二五	同 二五、四、一	二年十ヶ月	淵 崎	野島柳次郎
同 二五、四、一二	同 二七、三、二八	二ヶ年	日 宇 那	大東小次郎
同 二七、四、三五	同 二七、二、二七	九ヶ月	淵 崎	渡部謙太郎
同 二八、一、九	同 二九、七、二	一年七ヶ月	日 宇 那	川原平藏
同 二九、七、二三	同 三〇、三、二〇	九ヶ月	淵 崎	大濱 來造
同 三〇、三、三一	同 三五、八、二八	五年六ヶ月	大 河	定岡政太郎
同 三五、五、一二	同 三八、一、一三	三年七ヶ月	向 洋	林 勇三郎
同 三八、二、一四	同 三九、三、三〇	四ヶ月	淵 崎	三保綱太郎
同 三九、四、一一	同 四二、八、一二	三年五ヶ月	大 河	小川王敬司

### 筆 生

(芳川七之助氏調)

就職年月日	退職年月日	在職年月數	出身地	(臨時代理)米田八十八
同 四二、六、一五	同 四二、一〇、一五	五ヶ月	本 浦	黒田傳之助
同 四二、一〇、一八	大正 七、二、一九	八年五ヶ月	向 洋	芳 川 快 郎
大正 七、四、一一	同 八、九、一八	一年六ヶ月	向 洋	保 田 健 榎
同 三八、一、一四	昭和 四、三、三一	九年五ヶ月	淵 崎	

官選戸長時代は後の書記に相當せる筆生約十人及傭使あり(郡長(經伺戸長任命)最初の筆生は

久保田平二	芳川七之助	佐藤熊助	保田安次郎	米田八十八
英 平 内	中尾義則	川原平藏	菅 保右衛門	伊藤甚三郎
才木 愼 平	(以後不明)			

### 書記就退職一覽 (村記録)

就職年月日	退職年月日	在職年月數	出身地	氏 名
明治三二、五、二七	明治二八、一、一七	六年九ヶ月	日 宇 那	川原平藏
同 二二、五、二七	同 二七、二、二一	五年八ヶ月	淵 崎	三保田修一
同 二二、五、二七	同 二七、四、三〇	五ヶ年	本 浦	永野芳太郎
同 二二、五、二七	同 二七、五、二四	五年一ヶ月	丹 那	菅 安右衛門
同 二二、五、二七	同 三〇、三、三〇	七年十一ヶ月	大 河	定岡政太郎



同	四二、七、二七	大正元、八、三	三年二月	本	香川謙治郎
大正	七、九、一	昭和四、三、三一	十年七月	同	同
明治	四三、三一七	同四四、一、一一	十一月	同	同
同	四三、五、一	同四三、七、二六	三月	丹	中村松太郎
同	四四、八、二六	大正二、二、八	一年七月	同	同
同	四五、四、一	昭和四、三、三一	十七年	堀	田中睦治郎
大正	元、八、九	大正四、二、一五	三年五月	本	山本仲藏
同	八、二、三〇	同四、二、二五	六年一月	同	田岡作市
同	二、四、一	同四、一、三〇	二年八月	丹	同
同	二、八、一	同七、二、二五	五年五月	大	久保淺人
同	四、五、一	同四、二、二八	八月	向	黑田村
同	五、一、一	同六、九、二五	一年九月	丹	叶田鐵次郎
同	五、一、一九	昭和四、三、三一	十三年三月	本	植木理三郎
同	五、一、一九	大正七、二〇、七	二年十月	同	濱田新男
同	五、九、一	同七、八、二〇	二年	日	山本新男
同	六、四、一	同二、二〇、六	六年七月	向	坪田康人
同	六、〇、一六	同七、三、五	六月	丹	西本保美
同	六、一〇、一六	同七、三、五	十一月	同	福原量登
同	七、一、一	昭和四、三、三一	八月	大	細川岩太
同	七、三、二	大正八、六、三〇	三月	同	島本秀磨
同	八、二、二	同八、四、二一			

會 議 (村會) (昭和三年)

同	八、五、一	同	一五、五、一五	七年一月	同	英
同	八、七、五	同	八、一、一一	五月	本	深山又一
同	一一、一、一	同	一四、二、一七	一年四月	向	岩本俊二
同	一四、二、二〇	昭和	三、七、三一	三年六月	同	宮鐵次
同	一四、五、一	同	二、三、二	一年十一月	廣島	尚虎
同	一五、一、八	同	四、三、三一	三年三月	淵	武田和
同	一五、六、一	大正	二五、一、五一	六年	大	鍵山慶藏
昭和	二、二、一	昭和	四、三、三一	二年二月	大	堀井正司
同	二、四、一	同	四、三、三一	二年	向	正路
同	二、四、一	同	四、三、三一	二年	日	沖田正信
同	二、四、一	同	四、三、三一	二年	愛媛	高田一
同	二、四、一	同	四、三、三一	二年	淵	濱崎敬造

開會度數

開會日數

議員出席

決議案

意見答申

認定案

報告

選舉

提出案件

選舉 (有権者)

有権者數 衆議院議員 縣會議員 村會議員  
 三、八四三 三、五三三 三、二五三

選舉

種別	年月日	有権者數	投票者數	棄権者數	同上歩合
衆議院議員選舉	昭和 三、二二〇	三、八四三	一、四〇四	一、一四〇	三六三
縣會議員選舉	同 三、九一五	三、一七四	一、一〇〇	一、一六四	五六七
村會議員選舉	大正 一四、四一七	二、〇九四	一、六四九	四四五	二二三
陪審員抽籤	昭和 三、二二〇	八	一	一	一
土地貸賃價格調査員選舉	同 二、七六六	二、三三八	一四	二、〇〇四	九六四

町村制實施以來の村會議員一覽

出身部落 議員氏名 (附記は何年より何年迄の略 年號は省略せるもあり)

堀越 神田將一(四〇—大正六) 大和信吉(大正六—一〇) 正木斧平(大正一〇—昭和四) 澤本市郎次(二二—二九) 富永權助(二二—二六) 澤田七右衛門(二二—三四) 澤田恂造(二二—三三)

淵崎

一) 西本幸左衛門(二二—三九) 芳川七之助(二二—三一、三五—四二) 大下吉郎右衛門(二五—三〇) 伊藤長市(二五—三一) 芳川繁吉(三三—三七) 中野元光(三二—三七) 富永富士太郎(三四—四〇) 胡子傳七(三七—大正六) 高田順(四〇—大正二、大正六—一〇) 澤田七三郎(四〇—大正一〇) 芳川直一(四三—大正六、一〇—昭和四) 太田勝吉(四三—昭和四) 東宮太郎(大正六—一〇) 山代吉右衛門(一四—昭和四)  
 大濱來造(二二—二九、三八—四五) 保田平四郎(二二—三〇) 大橋道達(二二—三七) 和田辰次郎(二二—二五、三二—大正六、一〇—一四) 保田安次郎(二五—三七、大正六—一〇) 池田治平(二九—四五) 渡部謙太郎(三五—四〇) 保田松次郎(四〇—大正二) 三保修一(大正二—六) 吉岡宇佐吉(大正二—六) 中尾勇次郎(四〇—大正六) 杉本秀吉(大正二—一〇) 野島柳次郎(大正六—一三) 三保嘉一郎(大正六—一四) 板村信一(大正一〇—一四) 三保折藏(一〇—昭和四) 池田松次郎(一〇—昭和四) 北川万穂(一四—昭和四) 奥田龜三郎(一四—昭和四) 金森一男(一〇—昭和四) 中川半左衛門(二二—二六) 植木万吉(二二—二四) 米田八十八(二二—二九) 濱田松次郎(二五—四〇) 杉本辰五郎(三一—三七) 金井繁太郎(三四—大正六) 波田豊(三四—大正六) 中川矩三郎(二八—大正九) 松本正巳(大正二—六、一〇—昭和四) 津村數一(六—昭和四) 永原常太郎(六—昭和四) 中川半一郎(一四—昭和四)

本浦

大河

森澤彰一(二二) 花本榮之助(二二—二四) 伊藤甚三郎(二二—三〇) 鈴川豊作(二九—三四) 中本彦三郎(三一—三七) 鍵山慶次郎(三一—三四) 伊藤敏生(三五—四〇) 小川敬之助(二二—大正二、大正一〇—一三) 英房次郎(三七—大正六、一〇—一四) 村上德三郎(四〇—大正六) 高木治作(大正六—一〇) 川本喜代一(大正六—一〇) 網本清松(大正六—一〇) 三宅千之助(四三—大正一四) 岩澤熊助(三七—昭和四) 森只次郎(大正一四—一五) 三宅峯吉(一四—昭和四) 山本勘松(一四—